

ON!

Old but New

だいまるゆう

伝統を残しながら、変わり続ける街大丸有

大手町・丸の内・有楽町の

街づくりを発信する情報誌



大丸有協議会 25 周年記念号

1988 撮影 ▶▶▶ 2013 撮影

2014 SPRING

031

大丸有協議会発足 25周年を迎えて

大手町・丸の内・有楽町地区(以下、^{だいまるゆう}大丸有)のコミュニケーション誌 **ON!** を手に取っていただきありがとうございます。

大丸有は東京駅を中心に広がる120haにも及ぶ日本を代表する国際ビジネスセンターです。かつての大名屋敷街、高度成長期には業務特化の街とも呼ばれましたこの街を世界に輝きを放つビジネスセンターとしていくために、大丸有協議会とその参加企業は、街の再構築に取り組んでいます。

上質な街並みづくりや環境性能の高いオフィス、情報通信・エネルギー分野等、国際ビジネス拠点にふさわしい街づくりを進める一方、近年は、会食・買物や芸術鑑賞、散策等でも魅力溢れる街とする努力を重ねています。街の歴史や文化・芸術は都市で活動する人々の本質的な活力を高めてくれます。そしてそれは街の活力を高め、ひいては2020年のオリンピック・パラリンピック開催都市でもある東京、日本の国際競争力を高めることにつながります。

我々はこれからも、この街で働く方々、この街を訪れる方々に支持されるよう、また、より一層世界から注目されるよう取り組んでいきます。



大丸有協議会
(一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会)
会長 福澤 武

■大丸有協議会の主な歩み

- 1988年 地権者団体「大丸有再開発計画推進協議会」として発足
- 1994年 会員全社で「街づくり基本協定」を締結
- 1996年 東京都、千代田区、J.R東日本と大丸有懇談会を設置
- 2000年 「まちづくりガイドライン」策定(素案 1998年。最新は2012年版)
- 2002年 連携団体「Ligare(大丸有エアーマネジメント協会)」発足
- 2004年 **ON!** 創刊
- 2007年 連携団体「エコツヴェリア協会」発足
- 2012年 一般社団法人大丸有まちづくり協議会へ移行
- 2013年 発足25周年を迎える
千代田区より都市再生整備推進法人として認定

時代の証言者

今も昔も大手町は 情報発信の街

株式会社サンケイビル 代表取締役会長
日并 秀行

▼東京サンケイビルの建築模型の前で



大規模な再開発が進みビルは高層化され、街並みは25年間でずいぶん変わりました。新聞の印刷機能は郊外へ移転し、電波塔アンテナも地下ケーブルへと変貌を遂げましたが、新聞社や通信事業者が集積している大手町は今も昔も情報発信の街です。“平日働くだけの街”というイメージも変わってきています。当社は「東京サンケイビル」の公開空地で、土日も賑わうイベントを開催。近隣のワーカーだけではなく、新たに訪れる方々へ情報発信をしています。

▼以前より少し広くなったというバー「オーク」のバーカウンター内に立つて



週末の女性客が増えました
東京ステーションホテルバー「オーク」のマスターバーテンダー 杉本 壽

当ホテルで働き始めて55年になります。東京駅開業75周年を記念して25年前に生まれたのが赤煉瓦の駅舎をイメージしたオリジナルカクテル「東京駅」です。当時は部下を連れて大勢で訪れる方が多かったのですが、最近は一りでゆったり寛ぎにいらっしゃる方が多いように思います。また、週末にはショッピングの帰りに立ち寄る女性の姿も目立ち、丸の内もすっかり変わってきたなと思います。

ビジネスパーソンから レジャーニーズへ

パレスホテル東京 総支配人 渡部 勝



▲パレスホテル東京ボードールームにて

私が入社したのは1987年、その頃のお客様はほぼビジネスパーソンオンリーでしたが、丸ビルが改築される頃になると、プライベートのお客様も増えてまいりました。当ホテルもビジネスチャンスと捉え、建て替え、2012年にランドオープンしました。おかげ様で若年・女性層のお客様が増えて、今ではレジャーの方が40%近くを占めるようになりました。当ホテルにベビーカーのお客様が何組もお見えになって、ランチを楽しんでいる姿には感慨深いものがありますね。

創業当時と変わらぬロゴ
タイプの入り口ドア前で▶



旧丸ビルができた時からなので、テナント開業としては日本で一番古い歯科医院です。現在も2歳から99歳の方までが、通っていらっしゃいます。周囲のビルの様子はずいぶん変わりましたが、歯を通しても時代の変遷は感じます。現在は虫歯の治療が減って、口腔ケアが主流になっています。ストレスのせいもあるのがブラキシズム(歯ぎしり)の方が増え、スプリント(マウスピース)治療をすることも多くなったのがこの25年間で一番大きな変化ですかね。

歯の治療も虫歯から
口腔ケアに変わりました
バトラー歯科医院(丸ビル) 元田文治

25th

新聞をめくる音が消えた
スマホを見る人が増えた



喫茶店「斜里」(国際ビル) 高村昭子

丸の内を見続けて半世紀になります。最近ではスマートフォンでニュースを見る人が増え、室内に新聞をめくる音がしなくなったのが一番の変化ですね。そういう室内の微妙な音でお客様の様子を感じることができたのですが…。1980年代頃まではお茶する“間”のようなものをみんなが身につけて、上手に使っていたように思います。でも最近はそのような余裕がなくなったようで、どこか世知辛くなりましたね。

▲50年近く
使い続けるハン
ドル型レジ
スターと共に

▼東京駅前の行幸通りは大丸有の新しい観光スポット



行幸通りが整備され
大丸有の玄関口が
整いつつあります

ヨシモトポール株式会社 代表取締役社長
由井克巳

丸ビル1階ロビーには、戦前の旧丸ビル建築の際に基礎として使用された杭丸太が展示されています。私たちは林業に携わっ

ていたこともあり、感慨深いものがあります。当社は丸の内に本社を構え50余年になりますが、この25年間で大きく様子が変わったのは丸ビルに隣接する行幸通りだと思っています。新しい東京駅を見るビューポイントとしても人気です。また地下通路ではギャラリーでの展示会やマルシェなども開催され、すっかり大丸有の名所となりました。

大丸有の表玄関が復原。 1988年誕生の ギャラリーも復活。 行幸地下通路も完成。

被災して戦後は3階建ての駅舎を2階建てに復興して使用↓



Before

東京駅丸の内駅舎
(戦災で2階建て駅舎に復興)

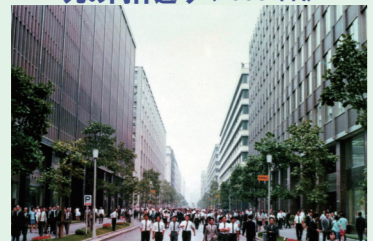


← 1914年(大正3年)に
創建された当時の東京駅丸
の内駅舎

2012年10月1日、保存・
復原工事が完成した丸の内
駅舎→

After

丸の内仲通り (1990年代)



↑まさにビジネス街の通り

丸の内仲通り (2012年撮影)



↑ブランド店が立ち並びファッションストリート

「赤レンガ駅舎」として国民に広く親しまれてきた東京駅丸の内駅舎(設計:辰野金吾)は、2003年に国の重要文化財に指定されていますが、丸の内駅舎は単なる文化財ではなく、100年近くの歴史の中で大地震や戦災の試練を受けつつも、大切に使い続けられてきた現役の建物です。今回の保存・復原にあたっては、その歴史を大切に継承するとともに、将来にわたり駅・ホテル・ギャラリーとして使い続けるため新たな機能・デザインを付加しています。また、重要文化財部分の補強を最小限に抑えつつ十分な安全性を確保するために新たに地下部を増築し、地下部と地上部の間に免震層を設ける「免震レトロフィット」を行っています。一方、行幸通りは天皇が行幸(外出)するための道路で、正式名称は東京都道404号皇居前東京停車場線。2007年、新丸ビル完成と共に東京駅前広場から日比谷通りまでの地下190mに行幸地下通路が完成。2010年には地上部が再整備され、歩道側の並木と合わせて4列の並木が復活しました。このスペースは街路という

性質上「何も無い」ことが特徴ですが、そのデザインには建築や土木の専門家以外に、都市計画や造園、工業デザインなど多くの専門家が参画しています。

大丸有地区の貴重な「間」といえる行幸通り→



After

東京駅丸の内駅舎
(2012年復原)



ビジネス街からショッピング街へ。 丸の内のメインストリートが変わる。

かつての丸の内仲通り界隈はビジネスマンの街で、とくに午後3時以降は、ビルの1階に入居していた金融機関や証券会社の店舗が店を閉め、シャッターを下ろしているような街でした。この風景が2002年の新しい丸ビル完成とともに劇的に変わり、「まちづくりガイドライン」の将来像の実現に向けた沿道地権者の協力により、若い男女なども行きかう魅力的な通りとなっています。

都庁の新宿移転に伴い構想された東京国際フォーラムは、新しい東京の顔として文化・情報機能や国際会議も可能なホールを併せ持つ総合文化施設として1997年に誕生しました。基本構想からバブル期を挟んで建設、竣工ということで、さまざまな紆余曲折もありましたが、東京のランドマークとして多くの人の注目を現在も集めています。建設に際しては日本初の国際建築家連合(UIA)公認の国際コンペとし、50カ国395件の参加がありました。採用されたラファエル・ヴィニオリ氏の作品は、大きな船のようなガラスの吹き抜けホール(ガラス棟)がシンボルで、プラザ(中庭)の視覚的広がりをつくるためガラス面は可能な限り透明なものを使用しています。

東京の文化と国際性を表現した 国際都市のシンボル。



Before

旧都本庁舎
(1991年撮影)

After



東京国際フォーラム (1996年竣工)

↑大正期の建物も
あった丸の内
構内旧都庁舎

7つのホール、展示ホール、
33の会議室等からなる→

写真提供/東京都

英国風オアシスの誕生。 オフィスワーカーの憩いの場となる。

数十種類のバラなど
多様な樹木や草花が
植栽されている→

Before

三菱商事ビル(2004年撮影)



↑1971年に竣工した三菱商事ビル
撮影/川澄・小林研二写真事務所

After

丸の内パークビル&三菱一号館美術館
(2009年竣工)



↑1900年ごろにはこの付近は一丁倫敦といわれた



三菱商事ビル、古河ビル、丸の内八重洲ビルの3棟を一体で建替えて、丸の内パークビルを建設。特例容積率制度の適用により、JR東京駅丸の内駅舎の未利用容積を活用しています。また、1894年に竣工した丸の内最初のオフィスビル三菱第一号館を再現した「三菱一号館美術館」も併設され、文化交流拠点としても位置づけられています。「一号館広場」と名づけられた緑あふれる中庭が設けられ、オープンカフェや英国風庭園でオフィスワーカーや来訪者のオアシスとなっています。クールシティ中枢街区パイロット事業の認定を受け、環境と共生するまちづくりを目指し、ヒートアイランド現象の緩和やさまざまな省エネ、環境負荷低減の取り組みも行われています。

OLD but NEW 古きを残して、新しきをつくる。

JPタワーは東京駅駅前広場に面する部分を中心に旧東京中央郵便局舎の一部保存することで、従来からの東京駅駅前の景観を継承しています。タワー部分は高い快適性と環境負荷低減の両立を実現。低層棟の屋上部を緑化し庭園として開放することにより、訪れる人たちに憩いの場を提供しています。



↑東京駅と対をなす東京の顔

景観は継承しつつ現代のタワー化→



Before After
JPタワー (2012年竣工)



↑1966年に完成した富士銀行本店ビル

Before

富士銀行本店 (1989年撮影)



After

大手町タワー (2013年一次竣工)

↓都心に森を再生した大手町タワー

金融の中心大手町に 本物の森が誕生。

みずほ銀行大手町本部ビル(旧富士銀行本店)と大手町フィナンシャルセンター跡地の再開発事業で誕生したのが「大手町タワー」です。最大の特徴は敷地全体の約3分の1に相当する約3,600㎡におよぶ「大手町の森」。また、同開発により大手町地区の地下ネットワーク機能も向上しました。



大手町に新しい風。 世界的に著名な彫刻家の オブジェも出現。

2002年にグランドオープンした東京サンケイビルは、高層オフィスの前に公開空地を活用した「フラット&ガーデン」が広がっています。とくに赤いオブジェ「イリアッド・ジャパン」はトロイ戦争をうたった古代ギリシャの叙事詩を題材にしたもので、大手町のシンボリックな現代アートになっています。

Before After
東京サンケイビル (新館竣工当時<1973年>)

台形の高層階が特徴的な新館→



←高層ビルの前に広がる公開空地

After
東京サンケイビル (2002年竣工)

●アイドル絶頂で、高級ディスコが盛況

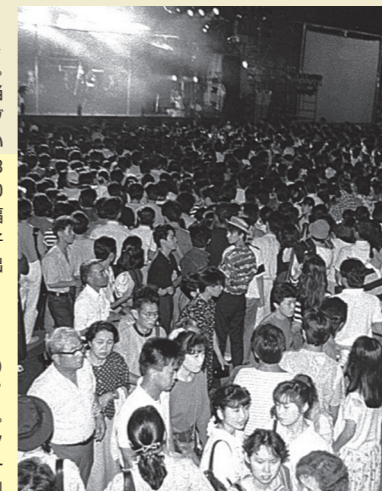
昨年、朝の連続テレビドラマ「あまちゃん」人気で、80年代アイドルの小泉今日子さんが注目されました。これがきっかけで、六本木のディスコ・マハラジャが当時の若者(今は40代の男女)で賑わうという、パブル再来現象も見られました。このパブルの頂点ともいえる時代が1988年ごろです。日経平均株価も初の3万円台を突破するなど国内経済は絶好調、何と1990年のお正月には年号にちなんで1億9,900万円の福袋が売り出され話題となりました。また、小泉今日子以外にも、松田聖子がアイドルでありながら子供を出産したことから「ママドル」として人気を博しました。

●「キープくん」と「お局さま」

当時の流行語は「キープくん」。本命の男性(本命くん)に対して、恋人未満友達以上の相手として「キープ」しておく、簡単にいえば「都合のいい男性」のことです。高級品をプレゼントしてくれる「ミツグくん」やタクシー代わりに自家用車で送り迎えしてくれる「アッシーくん」、食事だけをごちそうしてもらう「メッシーくん」などさまざまなバリエーションもありました。その際、「アッシーくん」にしても国産車で送り迎えしてくれるのはNG。女性たちは、外車の「アッシーくん」でないと肩身の狭い思いをしました。一方、女性に対しては中尊寺ゆつこさん命名の「お局さま」や、「HANAKOさん」などという言葉が流行りました。「お局さま」は、中年男性のようにゴルフやカラオケを嗜む職場のベテラン女子社員で、上司の男性も一目置く存在です。また、「HANAKOさん」は人気雑誌名からつけられたもので、ライフスタイルにこだわるアクティブな女性です。そんな彼女たちが愛用したファッションはディスコに合わせて体の線を強調したボディコン、髪型はワンレンが主流でした。

●ゲーム史上に残る名ソフトも登場

この時代に流行ったモノとしてテレビゲームがあります。「ドラゴンクエストⅢ」「スーパーマリオブラザーズ3」「ファイナルファンタジーⅡ」と、ゲーム史上に残るファミコン名ソフトがこの年に立て続けに出されました。そればかりか、ファミコンの驚異的な普及を



かして、データ通信やホーム banking サービスなども提供されるようになります。このほか、ファミコン以外にも「PCエンジン」「メガドライブ」も人気。翌年には屋外でも遊べるハンディタイプの液晶ゲーム機「ゲームボーイ」が、1990年にはファミコンの上位機「スーパーファミコン」が発売されます。

●重さ3kgのケータイ?!

もうひとつ忘れてならないのがケータイ電話です。1985年にNTTが発売した「ショルダーホン」は、何と重さは約3kg。肩にかけるタイプで、パブリーな男性はこれを見慣れずに持ち歩いていました。ただし、通話料が意外に高く、肩にかけておくだけで普段は公衆電話を使っていたようです。そして、その2年後の1987年に小型化した携帯電話と呼ばれる電話と同じくNTTから発売されましたが、そのときも重さは約900gあり、いまのようにポケットに入れて使うモノではありませんでした。ちなみに、現在はすっかりスマホが主流ですが、当時のごつい携帯電話を思い出させてくれるようなiPhoneケースが登場して話題を呼んでいるようで、何とも皮肉な話です。

●24時間戦えますか?それとも...

この年、「24時間戦えますか?」というTVCMとともに、新しい栄養ドリンクが発売されました。以降、男性サラリーマンを中心に、ミニドリンクで疲れを吹き飛ばすのが常識になっていきます。「24時間」とは、ビジネスが国際化していくなかで、時差を超えて1日中働くという意味です。この国際的な世界を支えたのがインターネットで、1988年にはアメリカで商用インターネットがスタート、日本でも同年にNTTがISDNサービスを開始しました。しかし一方で、仕事よりも遊びを優先するライフスタイル像が人気を博したのが、別の栄養ドリンクのTVCMに出演した高田純次です。こちらは、終業時間の5時になると、とたんに元気になる夜の街を遊び回る「5時から男」がキーワードで、1988年の流行語大賞・大衆賞を受賞しています。どちらもパブル期の世相を反映したもので、いずれにしても夜遅くまで精力的に動き回っていたのが1980年代後半のワーカーの姿です。

25年前の ライフスタイル



提供(モノクロ写真3点) / 読売新聞社

19

読売新聞ビルが開業

読売新聞東京本社の新社屋(愛称:読売新聞ビル)が2013年11月28日に竣工し、今年1月6日に開業しました。どのような災害時でも取材活動を続ける報道機関の自社ビルとして、耐震・防災性能を最高レベルまで高めたのが特徴ですが、一方で低層部の1~6階を文化・地域交流ゾーンとし、多岐にわたる施設を充実させています。

エントランスには、日本画の巨匠・横山大観が1939年に描いた巨大な「霊峰富士」(縦2.5m、横4.5m)を展示しているほか、高さ19mの「タワービジョン」、長さ14mの「ニュースビジョン」など3種類のデジタルサイネージが最新ニュースなどを発信します。

最大の目玉は「よみうり大手町ホール」(501席)です。半円状に飛び出した特徴的な壁を巡らすことで音を多方向に拡散させ、多目的ホールとしては極めて高い音響性能を誇ります。3月のグランドオープン後、クラシック、伝統芸能、演劇、落語など多彩な公演を繰り広げ、オフィス街に新たな人の流れを作っていきます。近隣企業に勤める人の子どもも受け入れる事業所内保育所、新聞記者体験ができる「新聞教室」は4月にオープン。一般外来も受け付ける「読売クリニック」はすでに開業しています。

ビルの周囲は、四季の花々を楽しめる植栽や花壇が取り巻きます。特に丸の内仲通りから続く延伸部は、サンケイビルの協力も得て、幅約20m、長さ約60mのオープンスペースとして整備し、ドライミストを設えました。また、ビルが箱根駅伝の発着点であることから、①歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」で駅伝コースをたどる「駅伝ウォール」、②ゴールする選手をかたどったブロンズ像「絆(きずな)」、③過去の優勝者を記した銘板——という3点のモニュメントを新設し、早くも記念撮影のスポットになっています。

【計画概要】 敷地面積：6,142.08㎡ 延床面積：89,650.99㎡
階数：地下3階、地上33階 高さ：200m
用途：事務所、劇場、店舗、保育所等

編集後記

大丸有協議会が25周年を迎え、「ON」の発行も100日目となりました。25年前と今を比べて昔と変わらない場所、新しい活動が生まれた場所、人によって感じ方はさまざまです。皆さんの25年はどうでしたか? 「ON」では今後も大丸有地区の魅力を発信し続けていきます。



▲よみうり大手町ホール



▲新社屋外観

丸の内 Sakura café 開催

「千代田のさくらまつり」と連動して丸ビル1階カフェ ease では、3月24日(月)~4月4日(金)の間、テラス席では桜の生木や春の花が飾られ、旬の食材を使ったオリジナルメニューが登場します。丸ビル3階回廊では、「福島の桜フォトコンテスト」の優秀作品も展示(主催: NHK 福島放送局)されます。



▲イメージ



ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 2014 開催

5月3日(土・祝)・4日(日・祝)・5日(月・祝)の3日間、東京国際フォーラムおよび大丸有地区で「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン『熱狂の日』音楽祭2014」が開催されます。東京で10回目の開催となる今年のテーマは「Jours de Fêtes 10 回記念 祝祭の日」。ヴィヴァルディ、モーツァルト、ベートーベンなどこれまで登場した10人の作曲家がその仲間たちを引き連れて、東京国際フォーラムに帰ってきます。



発行: 一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1
大手町ビル635区
TEL.03-3287-6181 FAX.03-3211-4367
<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/>

*本誌に関するご意見、ご感想等ございましたら下記までお寄せください。
machizukuri@otemachi-marunouchi-yurakucho.jp

東京駅 丸の内駅舎周辺ライブカメラ
<http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp/live/>

「大丸有(だいまるゆう)」とは、大手町の「大丸」の内の「丸」有楽町の「有」からとった造語です。